

第1問 世界史上の島

▶ 出題のねらい

島は、海を通じて周辺の地域との接触と交流を持ち、人とモノの行き来は、歴史の流れをつくり上げてきた。世界史上における島、島と周辺諸地域の関わりに関する問題は、大学入試でも頻出である。それぞれの島において、そこに住んでいた人々の社会、さらには外部の人々との交流・軋轢に注目しよう。

▶ 解説

A

問1 1 正解は⑤。

資料は、東南アジアのある島に住む女性カルティニが、ヨーロッパに住む文通相手の女性に書き送った手紙の一部である。ガメランとはガムランのことで、様々な打楽器を使用して演奏されるインドネシアの民族音楽のことである。

アージャワが入る。ジャワ島はインドネシアを構成する島の一つで、首都のジャカルタがある。カルティニは、この島の開明的な貴族の家に生まれ、ヨーロッパ式の教育を受けて育った。中学へ通うこと、留学することを強く希望していたが、その願いはかなわなかった。資料中に「オランダ流のものが多くわたしの心情を占めている」という記述があり、この島はオランダの植民地であったことが分かる。

あーグアム島は、太平洋のマリアナ諸島南端の島で、現在はアメリカ合衆国の準州である。1898年のアメリカ＝スペイン(米西)戦争の後、スペインからアメリカ合衆国の支配下に移った。

うーセイロン島は、インドの南東にある島であり、現在の国名はスリランカである。スリランカの名称は、古来のシンハラ語に由来するものである。16世紀初めからは、交易所を建設したポルトガルが、17世紀後半からはオランダが支配したが、19世紀前半のウィーン会議後、イギリスが全島を占領した。

X－正文。シャイレンドラ朝は東南アジアの王朝で、インドネシアのジャワ島で8～9世紀に繁栄した。大乘仏教を保護し、ボロブドゥールと呼ばれる大乘仏教の寺院を造営した。ボロブドゥールは、5層の方形壇と3層の円形壇を重ね、中央に大きな仏塔を建てた寺院であり、方形壇の回廊には、経典の内容を表す浮き彫りが多数施されている。

Y－誤文。オランダ商館員がイギリス商館員などを虐殺したアンボイナ事件は、1623年にモルッカ

(マルク、香料)諸島のアンボイナ島で起こった事件である。

Z－誤文。イスラーム国家のアチェ王国は、スマトラ島北部にあった。15世紀末に建てられ、マラッカがポルトガルに占領された後、ムスリム商人を引きつけ、香辛料貿易で繁栄した。

したがって、正解はい－Xである。

問2 2 正解は①。

① aはオーストラリア。オーストラリアは、イギリス人のクックが1770年にイギリス領と宣言した。イギリスの流刑植民地として開拓され始め、その後自由移民も加わった。さらに19世紀中頃の金鉱発見により発展した。先住民のアボリジニーは移民に土地を奪われ、迫害や疫病により人口が激減した。

② bはガダルカナル島。ソロモン諸島南部にあるガダルカナル島は、1942年8月から日米が争奪戦を展開し、日本は1943年2月に敗北して撤退した。1944年にはサイパン島で日米の激戦が続く、日本守備軍はほぼ全滅し、サイパン島はアメリカ軍が占領して日本本土爆撃の基地となった。

③ cはニュージーランド。17世紀半ばにオランダ人のタスマンが到達した。その後、18世紀後半にクックがニュージーランドをイギリス領と宣言し、1840年に植民地となった。イギリス人の入植者は、先住民のマオリ人をだまして土地所有権を買い取り、農園をつくっていった。

④ dはハワイ諸島。18世紀末に成立したカメハメハ朝が、ハワイ諸島を統一して19世紀初めにハワイ王国を建てた。しかし、1893年の親アメリカ系市民のクーデタにより、王国の最後の女王リリウオカラニが退位して王国が滅んだと、臨時政府が樹立され、アメリカ合衆国に併合された。アメリカ合衆国の水爆実験が行われたのは、南太平洋のマースシャル諸島のビキニ環礁(ビキニ水爆実験)で、1954年には日本漁船が被曝した(第五福竜丸事件)。

問3 3 正解は④。

④ コンバウン(アウンバヤー)朝は、18世紀半ばにコンバウンを都として、アウンバヤーが建てたビルマの王朝。清の侵攻を撃退し、アユタヤ朝を滅ぼすなど強勢を誇ったが、19世紀に3次にわたるビルマ戦争でイギリスに敗れて滅亡し、ビルマは1886年にインド帝国に併合された。

① 海峡植民地は、1826年にイギリスがマレー半島に形成した植民地で、ペナン・マラッカ・シン

ガボールを合わせたもの。強制栽培制度は、オランダがジャワ島などで行った制度である。

- ② ホセ＝リサールは植民地支配を批判し、フィリピンのスペインからの独立を目指して活動した民族運動家で、フィリピン(民族)同盟を結成した。独立派の組織「カティプーナ」の蜂起に関与したとして逮捕され、銃殺刑となった。
- ③ 西山(タイソン)の乱は、18世紀後半にベトナム中南部西山村の阮氏が起こした反乱で、西山朝を建ててベトナムを短期間統一支配したが、阮福暎により1802年に滅ぼされた。ドンズー(東遊)運動は、20世紀初めにファン＝ボイ＝チャウらが中心となって行った、ベトナムから日本へ留学生を送る運動のこと。

整理 東南アジアの民族運動(※カッコ内は宗主国)

インドネシア (オランダ)	ジャワ戦争(1825～30年) ・オランダ支配に対する王族の反乱 アチェ戦争(1873～1912年) ・アチェ王国とオランダの戦争 →オランダ領東インドの形成 ○カルティニ ジャワ島で女性解放運動 ○ブディ＝ウトモ結成 知識人中心 ○イスラーム同盟(サレカット＝イスラーム)結成(1911年、12年に改称)
ビルマ (イギリス)	ビルマ戦争(19世紀に3回) →コンバウン朝滅亡 インド帝国に併合(1886年) ○ビルマ全土に反英暴動
フィリピン (スペイン→アメリカ合衆国)	○ホセ＝リサール 民族運動家 ○カティプーナ結成 秘密結社 フィリピン革命(1896～1902年) アメリカ＝スペイン戦争(1898年) ○アギナルド フィリピン革命の指導者 →フィリピン共和国樹立 フィリピン＝アメリカ戦争(1899～1902年)
ベトナム (フランス)	フランス領インドシナ連邦成立(1887年) ○ファン＝ボイ＝チャウ 民族運動家 ・維新会結成 秘密結社 ・ドンズー(東遊)運動 ・ベトナム光復会結成 秘密結社
タイ：ラタナ コーシン朝 (チャクリ朝)	ラーマ4世(位1851～68年) ・不平等なバウリング条約締結(1855年) →英・仏の勢力均衡により独立維持 ラーマ5世(位1868～1910年) ・近代化政策 ・独立維持 ・不平等条約一部改正

B

問4 **4** 正解は①。

下線部㉔の人物についての説明－あ－正文。鄭成功は、武装商人の鄭芝竜と日本人女性の子として平戸に生まれ、のち父の故郷である福建に渡り、父と共に私貿易を行っていた。明の滅亡後、親子で協力して福建で明の皇帝一族を隆武帝として擁立し、反清復明運動を行った。隆武帝から国姓の「朱」姓を賜り、名も成功と改名した。1661年にオランダ勢力を追放して台湾を占領し、ここを拠点とした。

い－誤文。永楽帝に仕え、靖難の役で活躍して信任され、南海諸国遠征を命じられたのは、イスラーム教徒(ムスリム)の宦官の鄭和。15世紀前半に7回にわたる南海遠征を行い、朝貢貿易を推進した。

亡くなった後の台湾の状況－X－正文。1662年に鄭成功が病死した後、子の鄭經が遺志を継ぎ、鄭氏政権が22年にわたり台湾に存続した。康熙帝は1661年に遷界令を出し、鄭氏を孤立させて財源を断ち、内紛により弱体化した鄭氏政権を追いつめ、1683年に台湾を征服して直轄領とした。

Y－誤文。インド航路を開いたポルトガルは、16世紀にアジアとの貿易に参入し、ゴア・マラッカ・マカオ・平戸をアジア貿易の拠点とした。しかし、17世紀に入るとオランダがアジアに進出し、バタヴィアを拠点とした。台湾にも進出してゼーランディア城を築き、ポルトガルからマラッカ・セイロン島を奪った。オランダが台湾に築いたゼーランディア城は、鄭成功によって落城させられた。

Z－誤文。勘合貿易は、明代に行われた朝貢貿易の形態。15世紀初めに、室町幕府の足利義満が「日本国王」として封じられて始まった。後に勘合貿易の実権を掌握した大内氏が滅ぶと、この貿易は16世紀半ばに途絶えた。東南アジア各地に日本町が形成されたのは、17世紀初頭の朱印船貿易によるが、いずれも鄭成功死後の出来事ではない。したがって、正解はあ－Xである。

問5 **5** 正解は③。

③ 袁世凱は、李鴻章の後継者として清朝の実力者となった。1911～12年の辛亥革命で中華民国が成立すると、清の宣統帝を退位させ、臨時大總統となり権力をふるった。日英同盟を口実に第一次世界大戦に参戦した日本が、1915年に袁世凱政権に出したのが二十一条の要求である。袁世凱政権は、一部を除き受諾した。

① 幹線鉄道国有化計画とは、清朝末期に満州人皇

族を中心とした清朝政府が、民間の鉄道を一括国有化し、新路線敷設には外債を借り入れて実行しようとした計画である。民族資本家や地方の有力者はこの計画に一齐に反発し、辛亥革命の大きなきっかけとなった。

- ② 孫文は、香港で医学を学び開業して医者となるが、同時に革命運動に加わった。そして辛亥革命を成功させ、南京に中華民国を樹立して臨時大統領となった。宣統帝を退位させたのは袁世凱で、孫文から臨時大統領の地位を譲られた。
- ④ 西安事件は、1936年に張学良が中国国民党の蒋介石を西安で軟禁して内戦の停止と抗日をせまり、同意させた事件である。この後、国民党と中国共産党は再び接近し、1937年の日中戦争勃発を受け、第2次国共合作が成立した。

第2問 世界史上の農業

▶ 出題のねらい

農業は社会を理解するうえで重要な指標である。農業における変化は、社会の変化と密接な関係を持っていることが多い。歴史や社会を理解する時に、数字やデータとして表れた農業の変化を読み解く資質・能力は、今後の社会を生きていくうえでも重要である。

▶ 解説

A

問1 ⑥ 正解は②。

アー三圃制が入る。三圃制は、10～11世紀の中世西ヨーロッパにおいて広がった農法である。耕地を3分割して、春耕地・秋耕地・休耕地とし、休耕地では家畜の共同放牧を行い、地力の回復につとめた。この結果、農業生産力が増大した西ヨーロッパでは、余剰生産物が生まれて貨幣経済が普及し、荘園制が変容していく一因となった。ラティフンディア(ラティフンディウム)は、古代ローマで行われた奴隷を用いた大土地経営のことである。

イーシトー修道会が入る。シトー修道会は、11世紀末にヨーロッパに設立された修道会である。ベネディクト派の修道会で清貧と労働を旨とし、12世紀以降に大開墾運動の中心となって農村の拡大に関わった。イエズス会(ジェズイット教団)は、16世紀の宗教改革の際に、プロテスタントに対抗してカトリックが設立した対抗宗教改革(反宗教改革)を主導した修道会である。

整理 中世～近世ヨーロッパの修道院・修道会

名称	創設者(創設年)	事項(創設地など)
ベネディクト修道会	ベネディクトゥス(529年)	イタリア中部のモンテ＝カシノ 聖ベネディクトゥスの戒律「祈り、働け」
クリュニー修道院	(910年)	フランス中部のブルゴーニュ ベネディクトゥスの教えを实践 教会改革運動の中心
シトー修道会	(1098年)	フランスのブルゴーニュのシトーに創設 ベネディクトゥスの教えを实践 大開墾運動の中心
フランチェスコ修道会	フランチェスコ(1209年)	イタリア中部のアッシジ 托鉢修道会
ドミニコ修道会	ドミニコ(1215年)	フランス南部のトゥールーズ 托鉢修道会 パリ大学での神学研究に貢献
イエズス会(ジェズイット教団)	イグナティウス＝ロヨラ(1534年、40年教皇に認可)	対抗宗教改革の旗手 ヨーロッパに多数の学校設立 アジア・ラテンアメリカへの布教活動

問2 ⑦ 正解は③。

- ③ 柵で羊を囲い込んであることから、第1次囲い込み(エンクロージャー)を示した図であることを読み解きたい。第1次囲い込みとは、主にテューダー朝時代のイギリスで見られた土地経営の変化であり、領主や地主層が農民から土地を取り上げ、牧羊地へと変えた。この動きは16世紀を通じて続き、毛織物工業の活発化につながり、工場制手工業(マニュファクチュア)が定着していった。このことを、トマス＝モアは著書『ユートピア』のなかで、「羊が人間を食い殺す」と批判した。
- ① 機械を用いた工場労働の様子から、18世紀後半以降、イギリスで起こった産業革命の様子をあらわす図であることを読み取りたい。
- ② 悪魔を描いた紙帽子を被った男が火にくべられていることから、カトリックの現状を批判したベーメン(ボヘミア)の神学者フスの焚刑の図であることを読み取りたい。
- ④ 黒人たちが綿花栽培を行っていることから、18

～19世紀に北アメリカ南部で行われた、奴隷を用いた綿花プランテーションを示す図であることを読み取りたい。

問3 8 正解は②。

ウー14～15世紀のヨーロッパにおいて、貨幣経済の浸透と黒死病(ペスト)の流行による農業人口の減少が相まって、農奴制に立脚していた荘園制の基盤が大きく揺らいだ。農民が地代を貨幣で納めるようになると荘園制は崩壊していき、農民の領主への隷属性は弱まり、農奴的従属から解放される農民が増加した。

エー14世紀に大砲が発明され、15世紀に改良されて普及した。また、15世紀前半のフス戦争で小銃が使用されたといわれている。15世紀末からは歩兵が小銃を用いるようになったが、このような火砲の使用は戦術の変化を促し(軍事革命)、中世における戦争の花形であった騎士の役割は低下した。こうして騎士であった封建領主は、いっそう没落した。

B

問4 9 正解は①。

永井さんのパネルー正文。明代においては「湖広熟すれば天下足る」と呼ばれるように、長江中流域の湖広地方一帯が稲作の中心地となった。それまで稲作の中心地であった長江下流域の蘇湖(江浙)地方では、綿織物や絹織物の増産に伴う綿花や桑の栽培が盛んになり、稲作の中心地が移動した。

東さんのパネルー誤文。銅鼓を特色としたドンソン文化が栄えたのは、北部ベトナムを中心とした一帯である。ドンソン文化は前4世紀に発展し、その後、東南アジア一帯に広がった。

進藤さんのパネルー誤文。日本においては、前2千年期から1000年以上かけて徐々に稲作が始まり、弥生時代の前3世紀以降、日本各地へと広がっていった。日本で律令体制が導入されたのは、遣隋使・遣唐使を送って中国文化を輸入した7世紀である。

問5 10 正解は①。

① 古代ローマには、様々な地域から多くの人々が集まり、また、多くの下層民もいた。家父長の権威が重んじられたローマでは、有力者はそうした無産市民に対して、恩寵という形で食料の配給や娯楽の無料提供(「パンと見世物」)を行っていた。

② ジャガイモはアメリカ大陸原産の農作物であり、15世紀以降の大航海時代にヨーロッパに

渡ってきた。その後ヨーロッパに飢饉が起こると貴重な食料となり、食文化に根付いていった。

③ 農場領主制(グーツヘルシャフト)は、16世紀以降にエルベ川以東の東ヨーロッパで行われた農奴を用いた農場経営である。農場領主制のもとで生産された穀物の多くは、西ヨーロッパ諸国に輸出された。

④ ニューディールの一環として1933年に出された農業調整法(AAA)は、大恐慌と農作物の過剰生産による農民の困窮に対して、連邦政府が補助金を支払う法律。補助金の見返りに、農作物価格を維持するための作付面積の制限や生産調整が行われた。

問6 11 正解は④。

bー朝鮮戦争は、1950年に始まった朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)と大韓民国(韓国)の戦争である。「冷戦」が進行する中で、朝鮮半島は南北に分断されていた。金日成の主導する北朝鮮は、南北の統一を掲げて、境界線であった北緯38度線を越えて韓国へと侵攻した。それに対し、アメリカ軍を中心とした国連軍が派遣された。日本はアメリカ合衆国に対する軍需物資の提供によって特需景気となり、これを契機に経済復興を果たした。

cー第1次石油危機は、1973年、第4次中東戦争に伴いアラブ石油輸出国機構(OAPEC)がイスラエル寄りの国に対して原油輸出の停止や制限の処置をとり、石油輸出国機構(OPEC)が原油価格の値上げを決定したことによって起こった。これは安価な石油エネルギーに依存していたアメリカ合衆国や日本など先進工業国に大きな打撃を与えた。そのため日本やEC諸国は1970年代に省エネルギー産業への転換や工業製品の小型化を図り、経済不況に対して輸出競争力を強めた。アメリカ合衆国はこの変化に乗り遅れ、経済停滞が顕著になった。

aー1979年にソ連が行ったアフガニスタン侵攻をきっかけに米ソ対立が再び激化し、1981年にアメリカ合衆国大統領になったレーガンは、ソ連に対抗して軍備を拡張し、第2次冷戦(新冷戦)の時代を迎えた。この影響でアメリカ合衆国内では財政赤字と貿易赤字が深刻化した(「双子の赤字」)。そのため、1985年に米・英・西独・仏・日本による、ドル高の是正のため為替レートへの協調介入を行うという合意がなされた(プラザ合意)。しかし、同年アメリカ合衆国は世界最大の債務国になった。

▶ 出題のねらい

今回は、中国、古代ローマ、イスラーム世界の兵制に関わる内容を扱った。兵制といえば戦争に注目が集まりがちである。しかし、兵士を集めるための兵制は、社会の影響を受けてつくられたり、変化したり、また社会にも影響を与えたりするものである。したがって兵制を学ぶことは、当時の社会を理解するうえでの格好の材料となる。大学入学共通テストでは、今回出題したような一歩踏み込んだ内容を扱った資料や文章が出題される。ただし、基礎的な知識を持って考えれば解ける問題ばかりなので、落ち着いて取り組んでほしい。

▶ 解説

A

問1 12 正解は④。

資料の名称-『新唐書』である。兵制が変化した時代である(府兵制から募兵制へ)ということ、資料中の「藩鎮」などの語から、唐について述べた『新唐書』だと判断できる。

兵制については、後漢では豪族が武装集団を配下におさめ、勢力を拡大した。宋では傭兵制を敷いており、宰相の王安石が農閑期に農民に軍事訓練をさせて兵士とする保甲法を成立させたが、兵農一致は失敗に終わった。

S-誤文。雲崗に石窟寺院が造られたのは、5世紀の北魏時代。ガンダーラ様式・グプタ様式の影響が見られる。なお、中国的色彩の強い竜門の石窟寺院は、494年の北魏の洛陽遷都後から唐の玄宗の時代まで、約250年間にわたって開削された。

T-正文。唐の都の長安は東西交易の中心地として栄え、様々な文化を持つ人が訪れた。その中でネストリウス派キリスト教も伝わり、中国で景教と呼ばれるようになった。他にもゾロアスター教(祆教)、マニ教、イスラーム教(回教)などが伝わった。

したがって、正解はい-Tである。

問2 13 正解は③。

A-府兵が入る。府兵制は、西魏に始まる兵農一致の徴兵制度である。唐では全国に折衝府が置かれ、府兵に選ばれた農民が農閑期に訓練を受けた。都での衛士などを武器自弁で担った。資料には「京師に宿営せる而已」とあり、都での警備について記されている。募兵制は、722年に玄宗が傭兵を

募集し、749年に折衝府が廃止されたことで始まった傭兵制度。募兵の指揮官となったのが節度使であり、強大な力を有して藩鎮と呼ばれるようになった。

X-誤文。府兵制が始まったのは、6世紀の西魏である。隋・唐に継承され、整備された。

Y-誤文。両税法は、755～763年に起こった安史の乱の後の780年に始まった税制である。安史の乱は、募兵制で誕生した節度使の反乱であり、府兵制崩壊後のことである。

Z-正文。明の衛所制は、初代皇帝の洪武帝が府兵制を模範にして定めた制度である。他にも唐の律を参考に明律を公布するなど、伝統的な制度の復活を行った。しかし、紙幣の発行など元の制度を踏襲した点も少なくなく、柔軟に政治が行われた。したがって、正解はえ-Zである。

問3 14 正解は②。

② 2世紀末に華北を統一した曹操は、屯田制を始めた。曹操が行ったのは、官有地に農民を集団で移住させ耕作させる民屯で、収穫の5割程度が政府に納められ、有力な財源となった。流民が豪族の荘園に吸収され、小作人や奴婢として使役されることに対抗して行われた。

① 春秋時代末期に鉄製農具の普及などによって農業生産力が向上し、小家族での農業経営が可能になり、それまでの氏族の紐帯が緩んだ。

③ 宋代の新興地主層は形勢戸と呼ばれ、荘園経営に力を注いだ。佃戸は荘園制のもとでの小作農のこと。佃戸を用いた大土地経営の農業は、宋代から一般化した。

④ 宋応星は明代の学者で、1637年に産業技術書である『天工開物』を刊行した。1639年に農業技術・農業政策に関する『農政全書』を編纂したのは、明末の学者である徐光啓である(刊行は徐光啓の没後)。なお、徐光啓はイエズス会宣教師マテオ=リッチとともに、『幾何学原本』を漢訳し、『幾何原本』として刊行したことも名高い。

B

問4 15 正解は②。

② フランス革命中の1793年に、イギリスの首相ピットの呼びかけで、対仏軍事同盟である第1回対仏大同盟が結成された。ロベスピエールを中心とするジャコバン派政権は対外戦争に対応するために、1793年に徴兵制を実施した。神聖同盟はウィーン会議中の1815年に、ロシアのアレクサンドル1世が主導して組織された君主間の同

盟である。

- ① セルジューク朝の圧迫を受けたビザンツ(東ローマ)皇帝の要請を受けて、教皇ウルバヌス2世は1095年にクレルモン宗教会議を開催し、翌年、第1回十字軍が派遣された。
- ③ ギリシア諸ポリスは、アケメネス(アカイメネス)朝とのペルシア戦争での勝利確定後、ペルシアの再来に備えて、前478年頃にアテネを盟主とするデロス同盟を結成した。その後、アテネはデロス同盟の資金を流用し、強化することになった。
- ④ 1917年に起こったロシア十月革命(十一月革命)に反対する反革命軍(白軍)との内戦、1918年から起こった外国の対ソ干渉戦争に対応して、ソヴィエト政権は戦時共産主義体制を進め、中小工場の国有化、農作物の強制徴発、食料配給制などを行った。

問5 16 正解は②。

イーマリウスが入る。マリウスは、ローマの「内乱の1世紀」の初期に活躍した政治家・軍人。平民の没落をふまえて、武器自弁による重装歩兵ではなく、無産市民を私兵とする軍制改革を行った。アントニウスは、カエサルガイウスの部下として活躍した人物。プトレマイオス朝エジプトのクレオパトラと結んで、オクタウィアヌスと前31年にアクティウムの海戦で戦ったが敗れた。

Xーオクタウィアヌス・レピドウスとともに前43年に第2回三頭政治を結成したのは、アントニウス。

Yーマリウスは民会を基盤とする平民派として、元老院を重視する閥族派ハブスのスラと対立した。両派がお互いを虐殺した。

したがって、あーYが正解である。

問6 17 正解は③。

ウー貧窮ひんきやうが入る。資料の10行目に「彼らのものなど何も無い」とあることから、富裕ではなく、貧窮が入ることが分かる。

エー元老院が入る。この資料に書かれた内容は、問題文から前40年よりも前のことだと分かる。前40年のローマは共和政であったので、元老院が入る。ローマの帝政が始まるのは、オクタウィアヌスの元首政(プリンキパトゥス)が始まる前27年である。

人物ーウェルギリウスである。ウェルギリウスは前1世紀の詩人で、オクタウィアヌスの保護を受け、トロイア戦争後からローマ建国までの歴史を扱っ

た『アエネイス』や、『農耕詩』などを著した。タキトウスは後1～2世紀の歴史家・政治家で、『年代記』や、大移動前のゲルマン人社会を記した『ゲルマニア』を著した。質実剛健なゲルマン人を描くことで、ローマ人の墮落を批判した。

C

問7 18 正解は④。

王朝を建国した人物ーアイバクである。アイバクはゴール朝のmamuluk(奴隷軍人)であった。インドのデリー周辺を支配し、1206年に独立して奴隷王朝を開いた。その後、デリーを都とするハルジー朝・トゥグルク朝・サイイド朝・ロディー朝のイスラーム王朝が建国された。これらをまとめてデリー＝スルタン朝という。トゥグリル＝ベクはトルコ系遊牧民で、1038年にセルジューク朝を建国し、ブワイフ朝を倒してアッバース朝のカリフからスルタンの称号を受けた。サラディン(サラフ＝アッディーン)は、クルド人でファティマ朝の宰相であったが、自らが支配者となって1169年にアイユーブ朝を建国した。

資料Yの内容ーmamulukが年少であれば「イスラーム法の教養(中略)などが伝授された」(5～6行目)、「mamulukがすでに青年であれば、彼らには法学の基礎にかんする授業が行われた」(7～9行目)とあるので、すべてのmamulukにイスラーム法の教育が行われたことが分かる。軍事訓練は成人になってから行われると書かれており(9行目)、年少のmamulukと、青年のmamulukで教育内容が違うことも記述されている(7～8行目)。

問8 19 正解は②。

② ギリシア正教・アルメニア教会・ユダヤ教を信仰する非ムスリムの人々は、イスラーム法の下で庇護民ヒンとして扱われ、納税を条件に自治が認められた。様々な民族・宗教を抱えるオスマン帝国は、ミッレト(非ムスリムの宗教共同体)での自治を認め、ムスリムと他の民族・宗徒との共存を図った。

① デヴシルメで集められたのはキリスト教徒である。彼らはイスラーム教に改宗させられ、教育・訓練を受けてイエニチェリ軍団に編制されるなどした。

③ カピチュレーションは、オスマン帝国領内の居住・通商の自由を認めた恩恵の特権で、1569年にフランスに認めたのが最初である。後にイギリス・オランダも認められた。

④ ラージプート集団が存在したのはインドであ

る。ムガル帝国の第3代皇帝アクバルは、ヒンドゥー教徒のラージプートの女性と結婚することでムスリムとヒンドゥー教徒の融和を図った。

整理 イスラーム世界における軍事に関わる用語

ジハード (聖戦)	神のために自己を犠牲にすること。ムスリムの共同体であるウンマの防衛・拡大のために信徒に課された義務。戦争だけを意味しない。
ミスル	アラブ人ムスリムの軍営都市。ウマイヤ朝までのイスラーム世界が拡大する時期に多く建設された。
アミール	初期のイスラーム世界では司令官、アッバース朝時代までは地方総督の称号であった。その後、サーマーン朝などでは政治的支配者の称号となった。
マムルーク	トルコ人など白人奴隷を指す。アラブ社会で軍人として用いられた。
イクター制	ブワイフ朝で始まった。軍人・官僚に俸給の代わりに、地域ごとの徴税権を与えた制度。
ティマール制	オスマン帝国の制度。地方軍団を組織した騎士(シパーヒー)には封土(ティマール)の徴税権が与えられ、その代償として軍事奉仕が義務づけられた。
デヴシルメ	オスマン帝国の制度。キリスト教徒の臣民から徴税の一つとして少年を徴用し、イエニチェリ軍団や高級官僚に人材を供給した。
マンサブ ダール制	ムガル帝国の制度で、アクバルが定めた。すべての官僚に位階をつけ、給与と保持すべき騎馬の数を決定した。支配階層の組織化を図った。

第4問 ノーベル平和賞受賞者

▶ 出題のねらい

ノーベル平和賞は国際政治との関係が深く、世界史の知識や視点を働かせるにはうってつけの題材である。大学入学共通テストで出題される資料問題においては、資料を丁寧に読み解く力だけでなく、当然ながらその背景にある歴史的な知識や視点も問われる。今回の出題形式を参考にしながら、普段の学習においても世界史の知識や視点を働かせることを習慣づけてもらいたい。

▶ 解説

A

問1 20 正解は②。

② bはラインラント。ラインラントは、1919年に結ばれたヴェルサイユ条約で非武装化区域と指定された。資料は1925年に締結されたという点と、第1条から第3条までの内容からロカルノ条約であることを読み取りたい(牧野雅彦『ロカルノ条約』中公叢書より)。ロカルノ条約は1928年に結ばれた不戦条約(ブリアン・ケロッグ条約)とともに、第一次世界大戦後の重要な条約である。

① aはアルザス・ロレーヌ地方。ヴェルサイユ条約においてフランス領とされた。中世を通じて、神聖ローマ皇帝のハプスブルク家がアルザス・ロレーヌに様々な権利を行使していたが、三十年戦争の講和条約として1648年に結ばれたウェストファリア条約によって、フランスがアルザスとロレーヌの一部を領有した。1870～71年に行われたプロイセン＝フランス(普仏)戦争の結果、ドイツがアルザス・ロレーヌを獲得し、第一次世界大戦後、ヴェルサイユ条約によって再びフランス領とされ、現在に至っている。

③ cはズデーテン地方。ドイツ系住民が多く居住していたため、1938年にナチス＝ドイツがチェコスロヴァキアに割譲を要求した地域であり、同年のミュンヘン会談でドイツ領とされた。

④ dはポーランド回廊。第一次世界大戦前はドイツ領であったが、1919年のヴェルサイユ条約でポーランド領となった。ドイツ系住民が居住していたため、ナチス＝ドイツとポーランドの係争地となった。

問2 21 正解は②。

あ－正文。オランダのグロティウスは17世紀前半に『戦争と平和の法』を著し、国家間の紛争に自然法の適用を試みた。こうした業績から、グロティウスは「国際法の祖」と呼ばれる。

い－誤文。アメリカ合衆国のウィルソン大統領が1918年に発表した十四カ条に基づいて、1920年に国際連盟が発足した。十四カ条は、第一次世界大戦中にソヴィエト政府が掲げた「平和に関する布告」に対抗するものであった。四月テーゼは、レーニンが1917年に発表した革命戦略要綱である。

問3 22 正解は④。

ノーベルは19世紀後半に、ダイナマイトをはじめとした多くの特許を取得した。その遺産を基

に、1901年にノーベル賞が創設された。電信機は19世紀前半に、アメリカ合衆国のモース(モールス)が最初に発明した。モースは同時にモールス信号も考案した。

ロカルノ条約の締結に尽力したドイツの政治家は、外相であったシュトレゼマン。イギリスのオースティン＝チェンバレン(ジョゼフ＝チェンバレンの長男で、ネヴィル＝チェンバレンの異母兄弟)が1925年に、シュトレゼマンとフランスのブリアン外相が1926年に、ロカルノ条約締結に尽力したとしてノーベル平和賞を受賞している。

B

問4 23 正解は⑤。

a - ソンツェン＝ガンボは、7世紀前半にチベットの諸部族を統一して吐蕃^{とばん}を建国したチベットの王。彼はインドの文字をもとにしてチベット文字を制定した。

c - 8世紀後半に起こった安史の乱の平定直後、吐蕃は混乱する唐へ侵入し、一時は長安を占領するなどした。

図は唐蕃会盟碑と呼ばれる石柱。唐がウイグルの支援を受けて安史の乱を平定した後も、吐蕃はたびたび唐との衝突を繰り返した。そのため、資料X(ダライ・ラマ法王日本代表部事務所公式HP)の演説にあるように、講和条約が締結されて823年にこの石柱に記された(条約の締結は821年頃とされる)。

b - 13世紀に元のフビライに仕えたチベット仏教の高僧のパスパは、チベット文字をもとにモンゴル語を表記するパスパ文字をつくったが、複雑だったため民衆には広まらなかった。

問5 24 正解は④。

資料Yは、「中央人民政府とチベット地方政府のチベット平和解放に関する協約」(ダライ・ラマ著、木村肥佐生訳『チベットわが祖国』中公文庫)。資料Zは、1954年のインド下院におけるネルー演説(目賀田嘉夫・佐藤仁編『問題演習世界史』研数書院)。

ア-国民党が入る。1946年に国民党と共産党との内戦が再開したが、1949年に共産党が勝利を宣言し、中華人民共和国が成立した。中華人民共和国政府は、国民党や「帝国主義侵略勢力」からチベットを守るという大義名分によって、チベット支配を正当化しようとした。しかし、1950年に中国の人民解放軍がチベット東部へ侵入し、1951年には資料Yの協約を強制的に結ばせ、中国はチ

ベットを併合した。

イ-インドが入る。チベットは、1950年の中国の侵入に対して、インド政府に援助を求めたが、断られた。その後1954年にインドのネルー首相は中国を訪問し、「中国チベット地区とインドとの間の貿易及び交通に関するインドと中国との間の協定」を締結した。これはチベットにおける中国の主権を公式に認める結果となった。この協定の前文が平和五原則であり、資料Zの演説にもあらわれている。チベット問題の平和的解決を主張したネルーだったが、1962年には中国軍がインドへ侵入し、インド軍は大敗を喫した。1967年にも中印国境紛争が起こっており、インドは東北国境と西北国境において中国と対立している。なお、インドと分離して独立したパキスタンは、東パキスタン(現バングラデシュ)の独立をめぐって、1971年にインド＝パキスタン(印パ)戦争を行った。

問6 25 正解は①。

会話文の内容から、ダライ＝ラマ13世の治世の年代を推測しよう。「チベットは独立国家であることを宣言したけれど、成立間もない中華民国政府はこれを認めなかったようだね」とあることから、1910年代はダライ＝ラマ13世の治世であったことが分かる。1911年に辛亥革命が起こった翌年、チベットは清の官吏や兵士を追い出し、1913年に独立を宣言した。中華民国政府は宣言を承認せず、チベットは中国の管理下にあることを主張したが、1950年に中国人民解放軍が侵入するまで、チベットは事実上の独立国としての道を進んでいた。また、「ダライ＝ラマ14世は、チベット反乱が中国に鎮圧されたことをきっかけにチベットから亡命した」とあり、チベット反乱が起こった1959年は、すでにダライ＝ラマ14世の治世であったことも理解できよう。ダライ＝ラマ13世の治世は1879～1933年である。

- ① モンゴル人民共和国は、ソ連の支援を受けて1924年に史上2番目の社会主義国家として成立した。
- ② 北ベトナム爆撃(北爆)が開始されたのは1965年で、当時のアメリカ合衆国大統領はジョンソン。これ以降、アメリカ合衆国は本格的にベトナム戦争に加担するが、次第に反戦運動が盛り上がっていった結果、1973年にベトナム(パリ)和平協定が結ばれ、アメリカ軍の撤退が決まった。
- ③ 清はモンゴル・新疆・青海・チベットを藩部^{しんきょう}とし、自治を認めた。藩部には清の中央官庁であ

る理藩院から大臣などが派遣され、行政や軍事を監督した。康熙帝はチベットを藩部とし、乾隆帝はジュンガルとウイグル人の地(回部)を征服して藩部とし、新疆(新しい領域)と名づけた。

- ④ 1958年から展開された「大躍進」政策の失敗で国家主席の座を劉少奇に譲った毛沢東であったが、再び政権を獲得するために、大衆を巻き込んだ権力闘争を1966年に開始した。この運動はプロレタリア文化大革命と呼ばれ、「資本主義の道を歩む者」として劉少奇や鄧小平が批判された。運動を指導した「四人組」の逮捕で、1977年に文化大革命は終了した。1978年以降、鄧小平の指導で中国は改革・開放政策を展開していく。

整理 18世紀以降のチベット史

年代	主な出来事
1720年	チベットが清の藩部となる
1879年	ダライ＝ラマ13世が即位
1912年	チベットから中国の官吏や兵士を追放
1913年	チベットが独立を宣言
1933年	ダライ＝ラマ13世の死去
1940年	ダライ＝ラマ14世の即位
1950年	中国人民解放軍がチベットに侵入
1951年	チベットの平和解放に関する十七カ条協約が調印され、中華人民共和国に併合される
1954年	中国・インド間の貿易・交通に関する中国とインドの協定が結ばれ、チベットにおける中国の主権をインドが承認
1959年	チベットで大規模な反中国暴動が発生(チベット反乱)。中国軍が武力で制圧した。この間にダライ＝ラマ14世はインドへ亡命
1965年	チベットが中国の自治区となる。以来、資源開発やインフラ開発と並行して、漢人の移住が進行している
1989年	ダライ＝ラマ14世がノーベル平和賞を受賞

C

- 問7 26 正解は③。

ウにはスターリンが入る。スターリンに対する個人崇拝や、反対派を粛清する一党独裁の社会主義体制を、資料ではスターリン型の社会主義と表現している。スターリンは1922年にソ連共産党書記長に就任し、30年代以降、53年の死去まで独裁政治を行った。1928～1932年に、第1次五カ年計画と呼ばれる国民経済の社会主義的改造を行い、重工業の建設と、農業の機械化・集団化を進めた。

新経済政策(ネップ)は、ロシア革命後の内戦期

の戦時共産主義にかわり、1921～1928年に進められた経済政策。レーニンの指導で導入され、余剰生産物の自由販売や私企業などを認めた。レーニンの死後、スターリンが第1次五カ年計画を発表する際に否定的評価を下した。

W－正文。1985年に最後となったソ連共産党書記長に就任したゴルバチョフは、ペレストロイカ(改革)を掲げてソ連社会の改革に取り組んだ。外交政策においても、ブレジネフ以来の制限主権論を転換し、東欧諸国の自由化や民主化に介入しなかった(「新思考外交」)。資料の第3段落において、ハンガリーやチェコスロヴァキアへの軍事介入を否定的に表現しているところから、ゴルバチョフの考えを読み取りたい。

X－誤文。資料の第1段落から、東欧におけるヒトラーの同盟者たちが破産したと評価していることを読み取りたい。東欧諸国が停滞した原因はヒトラーの同盟者だったからではなく、第3段落にあるように、「ソ連の市場と技術に縛り付けられ、世界経済との関係を断絶させられたからだ」とゴルバチョフは述べている。

したがって、正解はい－Wである。

- 問8 27 正解は④。

う－誤文。会話文にあるように、ゴルバチョフは東欧諸国の民主化運動に介入をしなかった。なお、ソ連が介入した東欧諸国の民主化運動や反ソ暴動としては、1956年のハンガリー(ハンガリー反ソ暴動)、1968年のチェコスロヴァキア(チェコスロヴァキアの民主化運動)が有名である。

え－正文。資料第2段落に、東欧諸国にはスターリン型の社会主義が植え付けられ、事実上の一党独裁体制のままにとどまったとある。こうした体制下では公正な選挙や言論・表現・出版の自由といった市民の権利が認められておらず、ゴルバチョフはこれらを「装飾的性格」と第2段落の最後で表現している。

Y－誤文。中ソ対立は1956年のフルシチョフによるスターリン批判を機に始まったが、1989年5月のゴルバチョフ訪中で対立は解消された。ソ連の民主化を進めるゴルバチョフの訪中を背景に、中国で民主化を求める学生たちの運動が盛り上がった。1989年6月、こうした運動が弾圧される天安門事件が起こったが、ゴルバチョフがこれを公に批判したという事実はない。

Z－正文。ゴルバチョフは「新思考外交」を唱えて、1987年には中距離核戦力(INF)全廃条約をアメリカ合衆国と締結し、1989年にアフガニスタン

からの撤兵も実現した。また、同年12月にゴルバチョフはアメリカ合衆国のブッシュ(父)大統領とマルタ島で会談し、「冷戦」終結を宣言した。冷戦期の地域紛争においては基本的に米ソの対立があったために、国際連合が一致した行動はとれなかった。しかし、1991年の湾岸戦争では、米軍中心の多国籍軍が派遣され、ソ連もこの動きを支持したことで、「冷戦」終結を決定づける戦争となった。

したがって、正解はエ-Zである。

問9 [28] 正解は①。

- ① 1940年6月、パリがドイツ軍に占領されると、ド=ゴールは亡命先のロンドンで自由フランス政府を組織し、対独レジスタンスを指導した。7月にはフランス南部に、ドイツに協力的なヴィシー政府が成立した。1944年のノルマンディー上陸作戦によってパリが解放されると、ド=ゴールはフランスに戻った。
- ② ドイツは1939年に独ソ不可侵条約を結び、ソ連の中立を確保できたことで、第二次世界大戦の準備を整えた。1941年にドイツは独ソ不可侵条約を破って独ソ戦を開始した。1942～1943年のスターリングラードの戦いでドイツが敗北し、1945年5月ドイツの無条件降伏で独ソ戦は終結した。
- ③ 1941年4月に日ソ中立条約が結ばれた。ソ連は日本とドイツとの両面戦争を回避することを狙い、日本は北方の安全を確保した上で南進することを狙った。日本は南進に伴ってアメリカ合衆国との関係を悪化させ、1941年12月のマレー半島占領と真珠湾攻撃から太平洋戦争へと突入した。
- ④ 1943年のテヘラン会談において、ノルマンディー上陸作戦が約束された。作戦が実施されたのは1944年6月。ヤルタ会談は1945年2月に開かれ、ソ連の対日参戦やドイツの占領管理政策などが決められた。

第5問 世界史上の国際関係

▶ 出題のねらい

古代から現代に至るまでの国際関係をテーマとし、大学入学共通テストで出される会話文形式を用いた。内容としては、アフリカや東南アジア、第二次世界大戦後の冷戦など、見落としがちな地域やテーマを取り上げた。見慣れない資料や図版も一部に用いられているが、基本的な知識を組み合わせれば考えれば、正答に行きつくことができるはずである。

▶ 解説

A

問1 [29] 正解は③。

会話内で取り上げられた資料は、一般に「アパルトヘイト犯罪条約」と呼ばれるもので、1973年11月、ヨーロッパ系住民の優遇政策に固執するアの南アフリカに対する非難を目的として採択された。

- ③ 1931年に成立したウェストミンスター憲章は、カナダ・オーストラリア・ニュージーランド・ニューファンドランド・南アフリカ連邦・アイルランド自由国の6つの自治領に、外交権を含む事実上の完全独立を認めるものである。君主は共通のままだが、イギリス本国と各自治領は対等な独立国家となり、その連合体をイギリス連邦と称するようになった。
- ① オランダは1652年から18世紀末に至るまで、およそ150年間にわたりアフリカ南端のケープ地方を植民地として経営した(ケープ植民地)。しかし、ケープ植民地はナポレオン戦争の混乱期にイギリスの占領下に置かれ、1815年のウィーン議定書によってオランダからイギリスに支配権が移った。定住していたオランダ系住民(ブール人、アフリカーナー)はイギリス支配に激しく抵抗し、19世紀中頃になると内陸部に移動しトランスヴァール共和国・オレンジ自由国を相次いで建国したが、1899～1902年に行われた南アフリカ戦争でイギリスに屈服させられた。
- ② 19世紀後半、アフリカの多くの地域はヨーロッパ諸国の植民地となり、20世紀初頭には、19世紀半ばにアメリカ合衆国の解放奴隷が建国したリベリアと、古代から続くエチオピアを除いてヨーロッパ諸国の支配下に置かれた。エチオピアは、1896年、アドワの戦いでイタリア軍を撃退して独立を維持した。
- ④ イギリス支配に屈することになったブール人の間には根強い反英感情があり、その世論はドイツ率いる枢軸国側になびく傾向があった。しかし、1939年9月3日に第二次世界大戦が勃発すると、南アフリカ政府は親英勢力の主導のもとで連合国側での参戦を決め、世界各地の戦場でイギリス軍を強力に支援した。

問2 [30] 正解は②。

- ② アメリカ合衆国のケネディ大統領のニューフロンティア政策で焦点の一つとなったのは、公民権の拡大であった。1963年8月に行われたキング牧師の率いる約20万人のワシントン大行進で公

民権運動はピークに達したが、同年11月にはケネディ大統領がテキサス州ダラスで暗殺された。後を引き継いだジョンソン大統領が翌年に公民権法を成立させ、人種問題解決への重要な一歩を踏み出した。

- ① ソ連崩壊を受けて1991年に成立したロシア連邦は、多数の少数民族を抱えており、市場経済化による混乱もあって、国内情勢は極めて不安定であった。1990年代から10年以上も続いたチェチェン紛争では、北カフカスのイスラーム系チェチェン共和国が武装勢力を組織し、ロシア連邦からの独立運動を展開した。ロシア軍による掃討作戦で2009年にはチェチェン側の武装勢力をほぼ制圧し、現在は小康状態にある。
- ③ アフリカ中部の内陸国ルワンダは、第一次世界大戦後のベルギー委任統治領時代から深刻な民族対立を孕み、少数派ツチ族と多数派フツ族の対立が激化していた。1994年に大統領専用機が謎の墜落を遂げ、大統領が死亡した。これを契機としてフツ族の強硬派がツチ族や穏健派フツ族の無差別大量虐殺に乗り出し、その死者は50万人を超えたともいわれる(ルワンダ内戦)。国連の介入が遅れたこともあって国内は数年間にわたり無秩序状態となり、大量の難民も発生した。
- ④ アジア＝アフリカ会議(バンドン会議)は、1955年にジャワ島のバンドンで開催された。参加国は29カ国にのぼる。前年のネルー・周恩来会談で提唱された平和五原則の理念を拡大し、反植民地主義と平和共存を基調とする平和十原則を新たに採択した。その中でも「軍事ブロックの自制」の項目は、東西両陣営による冷戦構造を基軸とした国際秩序に一石を投じるものであった。

発展 アメリカ合衆国における黒人に関する歴史

年代	主な事項
1863年	奴隷解放宣言
1865年	憲法修正第13条により奴隷制度廃止
1860年代半ば	黒人迫害の秘密結社クー＝クラックス＝クラン(KKK)結成
19世紀後半	南部諸州で黒人取締法採択
20世紀前半	第二次世界大戦で約70万の黒人出兵
1957年	黒人投票権保障の公民権法成立
1963年	キング牧師のワシントン大行進
1964年	人種隔離禁止の公民権法成立
1968年	キング牧師暗殺
2009年	アフリカ系初のオバマ大統領就任

問3 31 正解は③。

- ③ cはアンゴラ共和国である。大航海時代からポルトガルの船舶が到来し、インド洋側のモザンビークとともに長年ポルトガルの植民地であった。第二次世界大戦後、本国のサラザール独裁政権は植民地支配を継続しようとするが、これに対して現地の武装勢力がソ連やキューバなど社会主義国の支援を受けて独立運動を展開。1970年代に入りポルトガルの独裁体制が崩壊したことを受け、1975年に社会主義国として独立した。その後2000年代初頭まで続く激しい内戦で国土は荒廃したが、石油資源などの地下資源もあって、新たな可能性がみえてきている。
- ① aはガーナ共和国である。奴隷貿易で知られるアシャンティ王国があった場所であり、ゴールドコースト植民地の名前でイギリスの支配下に置かれ、カカオのプランテーションが発達した。エンクルマ(ンクルマ)の指導により、1957年にサハラ砂漠以南のアフリカで初の独立を成し遂げた。社会主義政策を採用しソ連に接近したが、経済運営の失敗からクーデタが勃発し、エンクルマは国外へ亡命。その後のガーナは西側諸国との関係を堅持している。
- ② bはコンゴ民主共和国である。1885年にコンゴ自由国の名でベルギー王の管理下に置かれ、1908年から正式にベルギー植民地となった。ベルギーは1960年に独立を認めたが、すぐにウラン・コバルトなどの資源をめぐる親米派・親ソ派・親ベルギー派などに分かれて熾烈な内戦に突入し(コンゴ動乱)、国連軍の介入を招いた。実権を握った親米派のモブツ大統領のもとで国名をザイル共和国としたが、長期化したモブツの独裁体制は1997年に倒され、国名を現在のコンゴ民主共和国に改めた。
- ④ dはマダガスカル共和国である。19世紀末からフランスの植民地であったが、1960年「アフリカの年」に独立を達成した17カ国のうちのひとつとなった。経済面では厳しい状況が続き、1975年には社会主義政策採用宣言を発してソ連に接近したが、さらに経済状況が悪化して国際通貨基金(IMF)や世界銀行からの支援を受けることになった。現在は全方位外交を進めているが、政情は不安定なままである。

B

問4 32 正解は④。

ウーヒッタイトが入る。「前13世紀前半、エジプトとシリア地方のカデシュで衝突した」という会話

から、ヒッタイトであることが分かる。ヒッタイトは、前17世紀半ば頃アナトリアに強力な国家を築き、メソポタミアに遠征してハンムラビ法典で知られるバビロン第1王朝を滅ぼした。世界で初めて本格的に鉄器を使用した民族として知られ、前14世紀に全盛期を迎えた。アッシリアは、前2千年紀初めにティグリス川中流域に建てられた。一時、ミタンニ王国に服属したが、鉄器などを用いて強大化し、前7世紀前半に全オリエントを征服した。

粘土板に刻まれている文字は^{くさび}楔形文字である。アラム文字は、アルファベットの原型となったことで知られるフェニキア文字から派生してつくられた文字であり、両者はよく似た形をしている。

問5 33 正解は①。

X－正文。16世紀の神聖ローマ皇帝カール5世はハプスブルク家の当主であり、スペイン王カルロス1世を兼ねていた。ルター派の拡大で不安定化する帝国情勢に翻弄され、外交面でもオスマン帝国とフランスに挟撃されるなど、内憂外患の時期に難しい舵取りを強いられた。1555年にアウクスブルクの和議が結ばれると、その翌年に譲位している。オスマン帝国第10代スルタンのスレイマン1世は、フランスと友好関係を結び、1529年に第1次ウィーン包囲を行った。豊富な火炮を備えたオスマン軍は優勢であったが、気候などの問題もあってウィーンを占領することなく撤退したため、カール5世は事なきを得た。

Y－誤文。ネーデルラントは、15世紀後半にハプスブルク家の所領になった。16世紀後半、ネーデルラントではハプスブルク家からの独立運動が起こり、北部はネーデルラント連邦共和国(オランダ)として独立したが、南部はスペイン＝ハプスブルク家の所領にとどまった。スペイン＝ハプスブルク家の断絶を契機として18世紀前半に起こったスペイン継承戦争の結果、ネーデルラント南部はオーストリア＝ハプスブルク家領となり、ナポレオンが一時、併合した後、ウィーン議定書によりネーデルラント南部はオランダに併合された。ウィーン体制下でネーデルラント南部の独立運動は激しくなり、1830年にベルギーとして独立を宣言した。カール5世の治世中に、ハプスブルク家がフランスにネーデルラントを割譲したことはない。

あ－イエニチェリは「新しい兵士」を意味するトルコ語で、バルカン半島に住むキリスト教徒の子弟を徴集するデヴシルメによって編制された。彼らは

イスラーム教に改宗後、入念な訓練を受けてスルタン直属の精鋭軍として活躍した。

い－シパーヒーは、オスマン帝国の発展を支えた封建的騎兵を指す。彼らは徴税権を認められた封土(ティマール)を与えられ、その広さに見合った数の兵士を率いて従軍した。また、イギリス東インド会社がインド現地から調達した傭兵も、シパーヒーと呼ばれる。1857～59年に行われたインド大反乱は、このシパーヒーの反乱から始まった。

う－アミールは、イスラーム世界の司令官・指導者。初期イスラーム時代は征服軍の司令官を指し、ウマイヤ朝・アッバース朝では地方総督の称号としても用いられた。ブワイフ朝の君主は、カリフから大アミールの称号を与えられ、軍事権・行政権を掌握した。

したがって、X－あが正解である。

問6 34 正解は④。

④ マラッカ王国は、マレー半島の南西岸に建てられた典型的な港市国家。明の鄭和が南海諸国遠征の基地としたことで、朝貢貿易の拠点となった。インド洋のムスリム商人との関係が深く、15世紀半ばにイスラーム教を受容し、東南アジア世界のイスラーム化において重要な役割を果たした。

① ベトナムは長らく中国の支配下にあったが、11世紀初めに北部ベトナムに大越国の李朝が成立し、宋の軍事介入を撃退した。ハノイを都とした李朝は、ベトナム初の長期王朝となった。

② 南インドに栄えた主要な国の一つがチョーラ朝である。9～13世紀に海上交易で繁栄し、強大な海軍を使ってセイロン島や、スマトラ島のシュリーヴィジャヤ王国にも遠征を仕掛けた。チョーラ朝の拠点はスマトラ島ではない。

③ マジャパヒト王国は、元の軍隊を撃退した後、13世紀末にジャワ島に成立したヒンドゥー国家である。一時は周辺地域の海上交易を独占する勢いを持っていたが、新興のマラッカ王国との競争で15世紀後半には次第に力を失っていった。17世紀初頭に設立されたオランダ東インド会社と取引を行ったジャワ島の国家としては、マタラム王国やバンテン王国が挙げられる。

写真提供／ユニフォトプレス